

「お豆腐狂言」で人気の茂山千五郎家による狂言会を、昨年に引き続き今年も開催します。ユーモアに富んだ喜劇とも言われる狂言を前説付きで楽しめるので、狂言を初めて観る方でも安心してご覧いただけます。今年は、漫画のようなおかしみのある「蚊相撲」、狂言には珍しいロマンチックな情緒が漂う「御茶の水」、昔の婚姻の風習にもとづく「鶏聳」をお送りいたします。文化創造館で楽しむ、狂言の「和らい」にご期待ください。

「お豆腐狂言」とは

能楽師大蔵流狂言方 茂山千五郎家は、江戸初期から約400年にわたり、京都を中心に息づいてきた狂言師の家です。茂山千五郎家の狂言は、「お豆腐狂言」と称されます。その由来は、二世千作が、当時は一部の特別な階層の人々だけのものであった狂言を、地藏盆・結婚式・お祝いの会など、色々な所に出向いて演じ、仲間内から「お豆腐のような奴だ」と評されたことによります。それに対して二世千作は「お豆腐で結構。それ自体高価でも上等でもないが、味つけによって高級な味にもなれば、庶民の味にもなる。お豆腐のようにどんな所でも喜んでいただける狂言を演じればよい。より美味しいお豆腐になることに努力すればよい。」と、悪口を逆手に取りました。それ以来、茂山千五郎家では家訓としてこれを語り伝え、いつの世も広く愛される、飽きのこない、そして味わい深い「お豆腐狂言」を広めていきたいと活動を続けています。

あらすじ・解説

◆『蚊相撲(かずもう)』

奇想天外で漫画チックなおかしみのある狂言です。

相撲の会が多いので、大名は太郎冠者に新参の相撲取りを探しにやりますが、太郎冠者が連れて帰ったのは、ナント江州(滋賀県)守山に住む蚊の精です。相撲取りに化けて、人間の血を思う存分に吸おうという魂胆。これと取り組んだ大名は、最初は蚊の精に刺されて目をまわしますが、そこで思いついた妙計とは……？

◆『御茶の水(おちゃのみず)』

狂言には珍しいロマンチックな恋の情緒が描かれます。

ある寺の住持が弟子の新発意に、野中の清水で水を汲んで来いと言い付けますが、新発意は門前の若い娘・いちゃをやれと断ります。実は新発意はいちゃと恋仲。いちゃの跡を慕って清水へ行き二人で小唄を謡って舞い戯れているところに住持がやって来て、サア大変！実はこの住持、老僧のくせにいちゃに惚れていたフシもあるのですが、結末は……？

◆『鶏聳(にわとりむこ)』

昔は結婚の後、聳が舅に挨拶にゆく“聳入り”という風習がありました。それにまつわる、バカバカしくもホノボノと楽しい狂言です。

ある男が、聳入りの作法というものは舅の家で鶏の蹴りあう物真似をする事だと教わって喜んで舅の家に行き、「コキヤコキヤコキヤ」と喚きたてます。ビックリ仰天した舅、でもそこは大人の知恵で聳に恥をかかせぬように計らいます。



東大阪市文化創造館
HIGASHIOSAKA Cultural Creation Hall

アクセス

近鉄奈良線 八戸ノ里駅 北約200m(徒歩約5分)

※駐車場(有料)には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

〒577-0034 東大阪市御厨南二丁目3番4号

TEL : 06-4307-5772 (受付時間 : 9時~18時)

休館日 : 第2火曜日 ※今後の状況により受付時間を変更する場合があります。



SIAA
ISO 22196
抗菌加工
JP0122479X00021

この印刷物は両面に
抗菌加工を施しています